

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3610125340
法人名	医療法人 緑風会
事業所名	グループホーム 成長苑
所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞成長55-1 (電話)088-683-3335

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 6月 27日

【情報提供票より】(平成19年 6月 3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算	4.9人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日500円・その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4)利用者の概要(6月3日現在)

利用者人数	12名	男性	4名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	62歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	森本医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

H12年4月に開設され、8年目を迎えている。その間職員の異動は少なく、利用者にとって職員は長年共に暮らす家族のようななじみの存在となっている。開設当初から広い前庭があり、四阿(あずまや)にベンチを置き、季節の花を植えている。一部を家庭菜園にしており、きゅうりやトマトなどの野菜を栽培し、食卓を潤すとともに季節感も味わっている。立地条件も良く近くに神社・民家・小学校・スーパー・病院などがあり、街中に溶け込んだホームとして生活が継続できている。近くの小学校とは交流事業がきっかけで、何人かの生徒が週1回程度、気軽に訪問してくれる関係が続いている。またすぐ近くに母体病院があり、医療面での対応が24時間可能なため安心した生活につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題が何点かあり、少しずつ改善がみられた。入浴については、利用者の希望にそった入浴ができるように支援されていた。水分量の把握も水分チェック表の作成により、確実にされるようになっていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に職員全員で自己評価に取り組み作成されていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、民生委員、行政の方がメンバーとなっており、ホームの説明や外部評価についての説明がされていた。民生委員の方には、運営推進会議を通じて地域との交流を今後働きかけていく取り組みが予定されていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望等記録されており、介護計画に反映されている。苦情や不安については、気軽に言える雰囲気があり、すぐに対応できる体制がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民との交流はほとんどみられないが、近所の小学生との交流があり、折り紙などのレクリエーションをして楽しんでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に事業所独自の理念を作成しており、パンフレットにも掲げている。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスの理念を今後検討し、見直しされることに取り組みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、ミーティング時に職員間で話し合っているが、日々確認し合うということはない。	<input type="radio"/>	定期的に話し合いがなされているが、全職員への意識づけが十分ではないため、今後意識づけされるよう取り組みたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いがあまり積極的にできていない。	<input type="radio"/>	運営推進会議に民生委員の方が入られているため、その方を通じて自治会などに加入するよう働きかけていかれたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、その結果をミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに利用者家族、地域包括支援センターの職員、民生委員が入られており会議が開催されているが、その会議の記録が不十分で、どんな意見が出されたのかがわかりにくい。また職員の確認印やサインがない。	<input type="radio"/>	運営推進会議の会議録の作成と、職員に内容の回覧をし確認印やサインをされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月次報告など事務的な書類の提出における連携はされている。	○	市町村担当者へ事業所の考え方や実態を伝えて、ホームを知ってもらうような取り組みをされたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等への報告はきめ細かくされており、利用者の暮らしぶりやエピソードなどを成長新聞や便りなどで伝えられている。	○	金銭出納簿に家族の確認印がないため、今後確認印やサインをする仕組みづくりに取り組まれたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の異動が少なく、家族と馴染みの関係ができています。そのため何でも言える関係が築けている。家族会も設けており、話し合いがされている。意見や苦情などは、要望記録に残され、今後のケアに活かされている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員も多く、ほとんど異動や離職がない。運営者は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、段階的・計画的な研修の機会の確保がされている。しかし研修の報告書がなく、回覧もされていない。	○	研修会の報告書の作成と全職員が研修内容を共有できるように、報告する機会を作られたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国高齢者グループホーム協会県支部に加入している。その協会の主催する研修会などに参加し、同業者と交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入所される場合は、徐々に馴染めるように家族の方と相談しながら働いている。馴染みの家具や写真を持ち込み、安心した生活につながるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から教えてもらう場面作りを心がけており、共に生活するという関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをして希望を聞くようにしているが、十分に言葉で表現できない人には、その表情から推し測るようにしている。また家族の方などから情報を得られるように努めている。		
○チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月担当者会議を行い、介護計画の目標について話し合い、本人や家族の意向を反映できるようにしている。		
○現状に即した介護計画の見直し					
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に対応した見直しをしており、本人の状態により随時話し合いもするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らし続けていけるよう、柔軟に馴染みの職員が支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に家族と話し合いをして、病状により適切な医療が受診できるようにしている。母体が医療機関であり、すぐ近くなので常に相談しながら支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のかかわりについては、本人や家族の方々と話し合いを持ち、具体的な方針の統一を図り、安心と納得のいくかかわりができるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、他言しないことを徹底している。ミーティング時には一人ひとりのプライドを傷つけないような対応ができるよう確認合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら本人の思いを聞き取り、個別的な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みなどをメニューに入れ、畑の野菜も含め旬の新鮮な食材が購入できるように、買い物に行ける人は一緒に行っている。利用者は重度の方が多く、食事摂取の介助を要する人が多かった。	○	職員は介助方法を工夫され、する一方にならず、利用者と同じものを一緒に食べる時間の確保も検討されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調により入浴できるようにしている。また入浴できない方には清拭をするなど、一人ひとりに合わせた支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホールの窓から見える庭にすずめが舞い降りて、えさをついばむ姿が日常的に見られ、利用者はそのしぐさを見るのが楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の人が多いが、近所の神社までの散歩や買い物、ドライブなどで戸外に出られるようにしている。また庭に出て畑の野菜を見たり、散歩して外気にふれるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない支援を徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練や消火器の使い方など災害対策の訓練を実施しているが、地域の人の協力については、まだ得られていない。	○	事業所だけの訓練でなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を定期的に取り組んでいかれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事摂取量や水分量が大まかに把握されており、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援がされている。また嚥下等の不十分な人にも栄養バランスを考え、毎日プリンを手作りして食べてもらっている。	○	栄養バランスの把握など、定期的に栄養の専門的な観点からのチェックが、今後期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で生活感もあるが、季節を感じさせる物が少ないように見受けられた。	○	季節を感じられる物を取り込まれ、居心地よく過ごせるような工夫を今後期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすや鏡台、テーブルや椅子などの家具が置かれ、また人形や家族の写真を飾ったり、それぞれ自分の部屋を作り上げていた。		